

令和8年3月2日

報道機関各位

児童が卵から育てた
稚魚も放流します！

長岡市教育委員会科学博物館長



信濃川火焰街道連携協議会 縄文カムバック・サーモン事業 柿川にサケの稚魚5千匹を放流

長岡市と新潟市・三条市・十日町市・魚沼市・津南町の5市1町で構成する信濃川火焰街道連携協議会*は、各市町の小学校を対象に、サケと縄文文化の関わりを学習する「縄文カムバック・サーモン事業」を進めています。

長岡市では、昨年度に引き続き柿小学校児童がサケの稚魚を放流します。同校の脇に流れる柿川の上流には、火焰型土器が多数発見されている山下遺跡さんかなどがあり、縄文時代の活気あふれる地域の一つでした。

つきましては、下記のとおり概要をお知らせしますので、ぜひ取材くださるようお願いいたします。

縄文カムバック・サーモン事業

- | | |
|-------|--|
| 1 日時 | 3月17日（火）午前9時30分～10時ごろ |
| 2 場所 | 長岡市立柿小学校および柿川周辺（長岡市柿町650番地の1） |
| 3 参加者 | 柿小学校1・2年生 31人 |
| 4 内容 | 児童が卵から育てた稚魚を含む、サケの稚魚（約5千匹）を小学校近くの河川に放流します。縄文人たちと深い関わりがあったサケが数年後に遡上する様子の観察などを通して、縄文文化や自然環境への理解を深めてくれることを目的とします。 |
| 5 その他 | 当日は中魚沼漁業協同組合のご協力を得て実施します。 |

※信濃川火焰街道連携協議会

火焰型土器に代表される縄文をキーワードに、信濃川中流域の市町村が交流・連携をはかり、地域振興および広域観光を推進することを目的に平成14年に設立されました。各市町村の遺跡や展示施設を拠点にしたハード・ソフト両面での有機的な連携による、地域内外への積極的な情報発信を目指しています。



火焰型土器の鶏頭冠突起は、信濃川を飛びはねるサケを表現したものとされています。

問い合わせ：科学博物館 金垣
TEL 0258-32-0546